

鹿児島の魅力を発信します

毎日新聞鹿児島支局 支局長 石田 宗久

新聞記者にとっての楽しみは、勤務地の自然や食、文化との出会いです。特に初めて鹿児島を訪れた者には、桜島に代表される豊かな自然や食、歴史などが新鮮に映ります。日々のニュースを報じながら地域の魅力を発信することも、私たちの仕事です。毎日新聞の紙面掲載記事を基に、鹿児島の話題を紹介します。

仙巖園の金襤を復元

旧薩摩藩島津家別邸で国の名勝に指定されている「仙巖園」(鹿児島市)で4月、当主が暮らした「御殿」で約130年前に使われていた金襤が復元され、一般公開されました。2020年の台風被害で閉鎖されていた遊歩道も約7カ月ぶりに復旧し、桜島の絶景が楽しめます。

仙巖園は江戸時代初期の1658年に19代当主光久の別邸として造られました。明治時代から一時、本邸として使われた御殿には着替えなどに用いられた「化粧の間」にあった金襤を復元しました。博物館に収蔵していた現物を高精細カメラで撮影し、紫外線などによる傷みを画像処理で補修し、狩野派の絵師が描いた当時の姿を再現しました。

展望台「集仙台」跡地へと続く遊歩道も台風被害から復旧し、美しい景観が楽しめます。

奄美大島・沖縄を世界自然遺産へ登録勧告

日本政府が世界自然遺産に推薦する「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」(鹿児島、沖縄両県)の登録可否を事前審査する国際自然保護連合(IUCN、本部・スイス)は5月、「登録が妥当」と勧告しました。

対象地域には希少な生態系が今も残り、推薦地には95種の絶滅危惧種が生息し、このうち奄美大島の「アマミノクロウサギ」や沖縄島北部の「ヤンバルクイナ」などこの地域の固有種が75種を占めます。

2018年、推薦地の選定が不十分などとして

登録延期を勧告された経緯もあり、関係者の喜びもひとしおですが、島の希少動物を襲う野生化した猫「ノネコ」の問題や、観光客が殺到して環境に影響を与える懸念もあります。自然遺産を知ってもらい、守ることができるか。現地からは「世界自然遺産に登録されてからがスタート」との声が聞こえてきます。

かつお節香る芋焼酎

「さつま白波」などで知られる焼酎メーカーの薩摩酒造(鹿児島県枕崎市)は6月、かつお節と一緒にいぶした県産サツマイモで仕込んだ本格芋焼酎「燻枕崎」を、数量限定で発売しました。日本一の生産量を誇る市特産のかつお節の風味が特徴で、地元を代表する焼酎とかつお節の二つの食文化を融合させました。

かつお節をいぶす燻煙がたなびく枕崎市を焼酎でPRしたいと企画。市内でかつお節を製造する金七商店や枕崎水産加工業協同組合の協力を得て、約2年間かけて開発されました。蒸したサツマイモを粉碎し、かつお節の製造工程で約2時間いぶしてから仕込むことで、かつお節風味の焼酎を生み出しました。

かつおだしを思わせるスモーキーな風味とまろやかな甘みの味わいが特徴で、720mL(税込み2,000円)。薩摩酒造公式通販サイトで販売し、薩摩酒造は「枕崎の空気を封じ込めたような焼酎に仕上がった」と話しています。

新型コロナウイルスに対する鹿児島市医師会のみなさまの献身的な取り組みに敬意を表します。一日も早く、人々が安心し、笑顔で暮らせる日常を取り戻したいものです。

毎日新聞鹿児島支局では公式ツイッター(https://twitter.com/mai_kagoshima)でも情報発信しています。「はがき隨筆」へのご投稿もお待ちしています。